



木製の建て替えて地元・安渡地区の小国忠義さん(右端)から話を聞く県立大槌高校の生徒たち(2月28日、岩手県大槌町)



## 岩手・大槌

東日本大震災の津波被害に遭った岩手県大槌町の安渡地区で、教訓を伝える木製の碑が3月10日、建て替えられる。わざと劣化する木材で碑を作り、4年ごとに建て替えるよう提案したのは地元高校の生徒で、「思いを伝えていきたい」と話している。

# 碑を建て替え

東日本  
大震災  
10年

## あえて木製 教訓を伝える



木製の碑が最初に設置されたのは震災2年後の2013年3月11日。県立大槌高校の生徒が住民に「石で作った碑はやがて誰も見なくなり、風景の一部になってしまふ。木製の碑を作り、建て替えることが、教訓を伝えることにつながる」と持ちかけた。

地区では住民の1割を超す約220人が犠牲になった。「津波はこれまで来ない」と避難しなかったり、貴重品などを取りに自宅に戻って津波にのめたりした住民もいたため、碑の正面に「大きな地震が来たら戻らず高台へ」と記すことにした。



わざと建て替えなければならぬ碑を作って、教訓を忘れずに伝えようとしているのですね。

1 碑はなぜ、4年ごとに建て替える必要があるのですか。最も適切なものを選び、番号で答えましょう。

- ① 石で碑を作るのに必要な寄付金が集まらなかったから。
- ② 建て替えをすることで、津波のことを考えることができるから。
- ③ 建て替えが必要のない碑を作る技術がないから。
- ④ 石の碑には、言葉を書くことができないから。

②

2 筆者が読者に伝えたかったのはどのようなことですか。最も適切なものを選び、番号で答えましょう。

- ① 災害を伝える碑を建てるための寄付金集めには、協力すべきだと感じてもらうこと。
- ② 地元住民よりも高校生の意見の方がすぐれているということを知ってもらうこと。
- ③ 災害の教訓は、時々思い出さなければ忘れてしまうということに気付いてもらうこと。
- ④ 石の碑の方が、風景の一部になって地域の雰囲気<sup>ちいきのふんいき</sup>に溶け込めることを知ってもらうこと。

③

記事は、碑を「建てることの大切さ」ではなく、「災害の教訓を忘れないことの大切さ」を強調しています。碑を建てるだけでなく、建て替え続けるように工夫している点を多くの人に知ってほしいという願いが込められています。

読んでみよう！

## ◆ミー太郎のおすすめ記事

### 記号 時代に合わせて追加

日本の地図記号は、**国土地理院**（時事ワード6㉞）という国の役所が決めています。種類は100以上！時代に合わせて追加され続けています。



ア

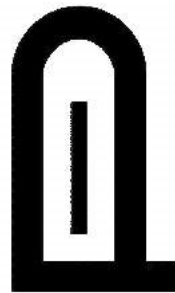


イ



たとえば「老人ホーム」の記号＝ア＝は、小中学生から募集して、2006年に誕生しました。昨年、加わっ

たのが、「自然災害伝承碑」のマーク＝イ＝です。津波や水害を伝える石碑などを示していて、過去の災害を地図でも伝えようと誕生しました。一方で、「桑畑」＝ウ＝はほとんどなくなることから、使われなくなりました。



**自然災害伝承碑** 災害のモニメントの位置を示す地図記号で、国土地理院が昨年6月に新設。新たな地図記号は13年ぶりで、西日本豪雨の際、広島県坂町で明治時代の土砂災害を伝える石碑があったにもかかわらず、避難せずに犠牲になった人がいたことなどから、教訓を周知する目的で誕生した。市町村が同院に登録を申請し、1日現在593か所が登録。ネットでは碑の画像や伝承内容も見られる。昨年9月発行分の地図から掲載された。

（2020年7月2日 読売 KODOMO 新聞、  
2020年9月23日 読売新聞夕刊より）

あなたの住む町に、「自然災害伝承碑」は  
ありますか。地図で確認してみましょう。





## 学習指導要領との対応表

読むこと		構造と内容の把握（ア）	精査・解釈（ウ）
設 問	1	○	
	2		○